

令和7年5月28日

山形県農林水産部長

令和7年産さくらんぼの作柄予想について

令和7年産さくらんぼの作柄予想について、5月27日の「山形県さくらんぼ作柄調査委員会」（委員長：県農林水産部技術戦略監、委員：JA全農山形、農業共済組合、東北農政局山形県拠点等）で検討した結果、下記のとおりとなりましたので、お知らせします。

記

1 作柄予想

- 平年より少ない。
- 予想収穫量は、9,100～10,200トン（前年比106～119%、平年比72～80%）
（前年の収穫量8,590t、平年の収穫量12,700t）
- 着果数が少ない主な要因として、開花期の天候不良（強風、降雨）で訪花昆虫の活動が鈍かった園地が多く、受粉されなかったことが考えられる。
- 双子果の発生は、平年より多いが、前年より少ない。

【前年収穫量】8,590t 【平年収穫量】12,700t（過去10年間のうち最大と最小を除いた8カ年の平均値）

※1 作柄は、平年収穫量との比較で次の5段階に区分する。

「多い」:115%以上、「やや多い」:105%以上 115%未満、「平年並」:95%以上 105%未満、「やや少ない」:85%以上 95%未満、「少ない」:85%未満

2 作柄調査の概要

- （1）調査日 令和7年5月23日（金）
- （2）調査園地数 県内主要産地48園地
- （3）調査結果
花束状短果枝当たりの着果数^{※2}：1.3果（前年1.6果、平年1.8果）

3 収穫盛期の予想

「佐藤錦」：6月17日～23日頃（平年並み）
「紅秀峰」：6月25日～7月2日頃（平年並み）

4 今後の対応等

- 双子果や着果量の多い園地における摘果作業、適切な着色管理及び病虫害防除、高温対策、適期収穫など、高品質生産・厳選出荷に向けた指導を徹底する
- 6月上旬～中旬に補完調査を実施し、今回の作柄予想から大きな変動が見込まれる場合は、改めて公表する。

※2 「花束状短果枝（かそくじょうたんかし）当たりの着果数」について



「花束状短果枝」＝花が咲いて実になる極短い枝のこと。
花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼ぶ。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているため平均着果数は2果となる。

担当：山形県農林水産部園芸大国推進課 課長 深瀬 靖
電話：023-630-2264